

31年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	0.0	9.1	13.6
	ヒノキ	6.3	6.3	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 100.0
	トドマツ	0.0	25.0	△ 100.0
消費動向	スギ	5.0	10.0	10.0
	ヒノキ	0.0	7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	10.0	10.0	15.0
	ヒノキ	△ 8.3	△ 16.7	△ 8.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 100.0
	トドマツ	25.0	0.0	△ 100.0

・スギ製材用原木の入荷動向は2月の横ばいから3月、4月は増加に。ヒノキは3カ月連続増加。カラマツ、トドマツとも2月、3月の横ばいから4月は減少に。

・スギの消費動向は3カ月連続増加。ヒノキは2月の横ばいから3月は増加、4月は再び横ばいに。カラマツ、トドマツともは3カ月連続横ばい推移。

・スギの在庫動向は3カ月連続増加。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツ、トドマツとも2月、3月の横ばいから4月は減少に。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
スギ	△ 25.0	△ 15.0	△ 15.0
ヒノキ	△ 7.1	0.0	△ 7.1
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	50.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の価格動向は弱保合。

・カラマツ、トドマツとも強保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・1月も降雪が少なく出材は進んでるが、皆伐量が少なく間伐主体なので入荷総量は多くない。林業従事者がフル稼働である現状から考えても、根本的にその部分を解決しなければ、出材量増加は期待できない。3月末で一定の在庫量を見込んでいるが、4月は入荷減少から在庫も減る予測（北海道）。
- ・2月は運材順調、今後は暖冬の影響で林道の状況が心配。消費量は10月6,400、11月5,550、12月4,500、1月4,200m³で、2月4,800、3月は5,000m³の予定（北海道）。
- ・雪の影響もなく順調な入荷になっている。荷動きも前月同様に好調（東北）。
- ・天候順調で出材増、入荷増となる。ヒノキは横ばい見通し（関東）。
- ・立木伐採が始まるのでスギ丸太は入荷増（関東）。
- ・入荷は安定した数量になっている。製材量はほぼ変わらない。在庫はスギやや増加、ヒノキはやや横ばい（中部）。
- ・2月に入って天候不順のため入荷が停滞している。低温により製材スピードを遅くする必要が出始めているため、消費は落ち込んでいる（中国）。
- ・スギの出材は相変わらず少ないまま。ヒノキの出材は順調。消費は入荷動向に正比例。ヒノキは製材量以上の在庫。スギは変わらず（中国）。
- ・天気良好で出材良い。1時間の残業で消費は横ばい。入荷と消費のバランスはとれている（九州）。
- ・各原木市場出材は多い（九州）。

(原木価格)

- ・カラマツ、トドマツとも高値横ばいだが入荷は増えない（北海道）。
- ・公売でトドマツ丸太を高値購入（北海道）。
- ・年始めの初市よりスギ、ヒノキとも若干値下がり傾向にある（東北）。
- ・スギ、ヒノキとも出荷増で下落するだろう（関東）。
- ・スギ丸太の市況が下がる（関東）。
- ・単価はあまり変わらないが、落ち着いてきているイメージ（中部）。
- ・スギ合板の買いが強いため、安い材料から高くなる。ヒノキはスナダヤの買いが強く、これも安い材料より高くなる。全体のボリュームは横ばいながら、製材以外への買いが強いため原木が不足している（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも価格横ばい（中国）。
- ・昨年秋に高騰したヒノキ柱取り丸太も順調な丸太出材と重い荷動きのため値下がりしたままの横ばい（中国）
- ・ヒノキ4m×16～18、20～22、24上の直材、やや曲がり材は、合板の参入により同価格に近い（九州）。
- ・暖冬だった分原木の出材が多く、やや下落し多少価格に影響している（九州）。

31年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
生産動向	スギ	13.6	9.1	8.3
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	25.0	△ 50.0
出荷動向	スギ	△ 4.5	4.5	4.5
	ヒノキ	△ 6.3	0.0	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	11.1	0.0	0.0
	ヒノキ	14.3	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	△ 50.0

・スギ製材品の生産動向は3カ月連続増加。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続横ばい推移。トドマツは2月、3月の増加から4月は減少に。
 ・スギ製材品の出荷動向は2月の減少から3月、4月は増加に。ヒノキは2月の減少から3月は横ばい、4月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは2月の増加から3月は横ばい、4月は減少に。

・スギ、ヒノキ製材品の在庫動向は2月の増加から3月、4月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは2月、3月の横ばいから4月は減少に。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	5.6	△ 5.6	△ 5.6
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	5.6	△ 5.6	△ 5.6
	ヌキ	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	0.0	0.0	0.0
	土台角 12×4	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	100.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	100.0	
トドマツサンギ	0.0	50.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は柱角KD10.5×3、間柱、ヌキは弱含み。その他の品目は横ばい。

・ヒノキは全ての品目で横ばい。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも強含み。

・トドマツサンギは強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・パレット業界も消費増税直前の駆け込み需要に備えて在庫を増やしており、注文は増加している（北海道）。
- ・原木に合わせて生産、即出荷（北海道）。
- ・工場稼働日数の関係で1月の生産が弱かったが、2月以降は雪の影響もなくフル稼働。1月末にかけて荷動きが悪かった。2月も市場での苦戦が見込まれるが、大きな落ち込みはない。サイズによって偏りがあり、スギ105系は引合いが強く、在庫が薄い（東北）。
- ・ストック在庫とするため生産は拡大の計画（関東）。
- ・生産自体はずっとフル稼働しているので数量に変化なし。スギ、ヒノキとも横ばいだが在庫は少ない（中部）。
- ・生産は丸太の入荷と天候（気温）次第。出荷は冬期にしては良くなってきたが、2月に入り多少の落ち込みが見受けられる（中国）。
- ・原木入荷動向正比例して生産。出荷は荷動き停滞気味も今月から地場消費に明るい気配。厳しい冷え込みだった昨年2月と比べると嘘のような暖かさで製材も順調。ヒノキ製材品の在庫を積み上げ中（中国）。
- ・生産量が決まっているので、スギ製材品の生産動向は横ばいで推移（九州）。
- ・ピーク程ではないが、KD材は順調に出荷している（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツ梱包仕組み材、カラマツラミナとも4月より値上げを実施（北海道）。
- ・トドマツサンギ3月より値上げ、客先へ案内済み（北海道）。
- ・スギ105の3m柱、間柱は2月から単価底上げ。120系は弱く105へ生産シフト。ヒノキは引合いにやや落ち着きあり。スギ集成は引き合い強く出荷調整、単価交渉続く。ヒノキ集成はまだまだ販売苦戦（東北）。
- ・スギは全体的に横ばい。スギ、ヒノキラミナ在庫積み増し計画（関東）。
- ・サイズによっては若干低下（中部）。。。
- ・スギは勢いはないが、引合いはあるので単価面では横ばいか。ヒノキは（中国）。
- ・製品単価はスギ、ヒノキとも横ばい。スギ、ヒノキの通し柱が品不足により強気配（中国）。
- ・1時間残業で生産は普通。順調に出荷している。4m×105、120角材の動きが少し悪い（九州）。
- ・ヒノキは売れが若干悪い。ラミナは横ばい（九州）。

31年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
仕入動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	△ 100.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	100.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 100.0	50.0	△ 100.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は2月の減少から3月は増加、4月は再び減少に。NZラジアータは2月、3月の横ばいから4月は減少に。

・米マツ丸太の消費動向は2月の減少から3月は増加、4月は横ばいに。NZラジアータは2月、3月の横ばいから4月は減少に。

・米マツ丸太の在庫動向は2月の減少から3月増加、4月は再び減少に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太製材用原木の購入価格動向は弱保合。

・NZラジアータ丸太は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZラジアータ丸太は4月以降は不需要期のため入荷、消費、在庫ともやや減少。

(原木価格動向)

31年2月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
生産動向			
米マツ製材品	△ 50.0	100.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	50.0	100.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	100.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は2月の減少から3月は増加、4月は横ばいに。NZラジアータ製材品は2月、3月の横ばいから4月は減少に。

・米マツ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。NZラジアータ製材品は2月、3月の横ばいから4月は減少に。

・米マツ製材品の在庫動向は2月、3月の増加から4月は横ばいに。NZラジアータ製材品は2月、3月の横ばいから4月は増加に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	50.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格動向は平角は弱含み。正角、小割は横ばい推移。

・NZ梱包材(割角、割板)は土木用材とも弱含み。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

・NZラジアータ製材品は4月以降不需用期のため生産、出荷、在庫ともやや減少。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は1~3月中で2,000円/m3値上げ中。梱包材、土木用材とも4月以降は重要減のためやや下落。